

無料のタウン誌です。ご自由にどうぞ



2024 年 秋・78 号

信条・世に媚びず ・ 粹にとらわれず
・ 言いたいことはハッキリ言おう

発行／吉田 進

FAX：06-7879-6372

〒110-0015

東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL：https://lifecrossing.ne.jp/

E-mail：info@lifecrossing.ne.jp



タイ西部、ミャンマーとの国境近くの町、カンチャナブリのエラワン滝。外国人観光客が水遊びに興じていた

《読者の皆さんからの表紙の投稿を歓迎します》

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

われら地球人 平和ファーストで生きる 吉田 進… 2

ND新外交イニシアティブ猿田佐世代表講演から
文責・ライフクロッシング編集部… 3

日本の「食」パートⅡ
消費者が気づき、消費姿勢を変えれば、日本の食は蘇る
東京 岡山 暁生… 4

造物主からの伝言 - その六 - 自分らしく生きる
北里大学名誉教授 馬淵 清資… 5

「安倍の政治を許さない」と叫びながら
「安倍の政治を許し続けて来た」我々は
やりかたを抜本的に考え直さなければいけない (上)
東京 三田 栄考… 6

立憲民主党は現実路線に変更すべき 大阪 貴澄 ハル… 7

「我思う、故に我在り」
デカルトの言葉を拝借して勝手に政治解釈
大阪府藤井寺市 松井 学… 8

市民と野党の共同で、都知事・都議補選を取組んで
東京江東区 市民連合 内田 敬三… 9

中央アジア4ヵ国周遊10日の旅(上編)
シルクロードの十字路 兵庫県加古川市 藤田 新三… 10

人々の小景②⑥ チューザレ・パヴューゼ
一人が生み出す狂気への憎悪 - 市川 隼… 11

秀吉! このあほうが! 作・秀吉実姉(とも)… 12

北の関ヶ原(下) 東京練馬 阿部 敏夫… 13

2年間の経済制裁がロシア市民生活に与えた打撃とは
～現地国際映画祭審査員参加した筆者が語る～
増山 麗奈… 14

チャンスは逃がすな 高橋 薫… 15

余録／編集後記…………… 15

カネで決まる政治から、心を繋ぐ政治へ
立憲民主党総支部長 いちき 伴子… 16

われら地球人

平和ファーストで生きる

吉田 進

夏が来れば思い出す――

「熱中症 影を慕いて われは行く」の川柳を。気象庁は「今年も暑い夏。冷房つけて出歩くな」と言う。「電気代は高いが命は大事」と聞き取れる。

東京駐在のある外国メデイア特派員は、「バンングラデシユでは気温43度の時もあるが、外で働く日雇い労働者は家族を養うため働き続ける。時折の雨は大地を冷やしてくれたが、今はそんな気配はない。同じ砂漠国では大雨は洪水だ」「地球温暖化は先進諸国がもたらしたもの。彼らは途上国の対策費として20年度までに年1000億ドルを拠出すると約束したが守らず、軍事費は対前年度比6・8%（約380兆円）増やしている」と嘆く。

なるほど、ロシアやイスラエルは違法残虐な火の玉のミ

サイルを撃ち続けて街を破壊し、無防備の子女や老人を殺しまくっている。

生きるも死ぬも紙(神)一重

今年7月の米大統領選のテレビ討論会で、共和党のトランプ氏がバイデン大統領に人気度(67%対33%)で勝った。その彼は7月14日、演説中に銃撃され、間一髪で助かった。それで、また彼の人気は倍増した。

米国は銃社会。銃撃で大統領のリンカーン、ケネディをはじめ多くの市民が殺されているが、その銃規制に、業者から資金をもらって反対するトランプ氏が銃撃されるなんて、何とも皮肉だ。

それを彼は、「神の御加護で助かった」というが、「地獄極楽この世にござる」で災いは「紙一重」だ。世には天罰という言葉もある。気をつけんと。

そこで気になるのが民主主義の国アメリカのこと。所詮、トランプのアメリカファーストは、ウクライナ支援金をやめ、各国への安保資金の増額。輸入品の増税等でEU国内で増加する右翼政党に似る。加え、自分なら「ロシアVSウクライナ侵攻は、すぐ解決させる」「北朝鮮の金正恩総書記とは話し合える関係」とかを公言するが、それ



7月13日、銃撃されたトランプ氏

は世界の笑い話で、それが前記の方程式だ。

そしてトランプ氏へ米連邦最高裁は、トランプ前大統領が主張する大統領の「免責特権」を認めた最高裁の保守派6人の判決。彼らは、米連邦議会襲撃事件を差し戻し、他の有罪事件の数々も大統領選後に後回しにした。3人のリベラル派の判事はそのことを「大統領は今や法の上に立つキングだ」と怒る。

それはまさに民主主義の死を意味する。さて日本の最高裁

はどうか。旧統一教会の献金で信者が「一切の賠償請求をしない」と書いた念書に対し、最高裁は「無効」の判決を出した。すばらしい。

どうすりゃいいのよ選挙民

自民党は長年の「統一教会」との癒着でカネと票をもらい、またも違法のカネ集めで支持を失い沈没、浮上なし。だから野党は、その自

民党にすり寄らず、二大政党づくりをめざさねば。いまのままだは無党派の投票先がない。

そして、沖縄ではまたもや米軍による子女暴行事件が繰り返されている。それこそ日本は「沖縄ファースト」で米国へ正当対等な抗議をしなればいかん。

7月21日、バイデン大統領は、11月の立候補をやめ、ハリス副大統領(59)にゆずるとか。その支持率の世論調査では、ハリス氏44%、トランプ氏42%と出た。以後、ハリス人気が上昇すると思うが、神のご加護、いや選挙民の良心を信じて止まない。

さて、一万円の顔になる洪沢栄一の言葉でシメとしよう。
●戦争は人心より発生する。
●自分のためでなく、必ず何か世のためになることをするのが義務である。

日本資本主義の父、洪沢さんへはいろんな評価もあるが、「経営は菩薩行」で、一万円札を、うんとフトコロで暖めようよ！ ほんにそうなるかな。

ND新外交イニシアティブ

猿田佐世代表講演から

文責・ライフクロッシング編集部



鳩山元首相に随行 2018年2月

を話して来たから、しゃべりなれているのが誰にでも直ぐに分かる。少し慣れ過ぎて熱を感じないのが玉に瑕か。だから今日はどの切り口で、聴衆の層に応じて話法を変えるのかお手の物で、相変わらず少し早口だがその活動範囲・分野の広さには改めて恐れ入る。多くの左派リベラル派の外交論は観念的で平和運

外交は政権の専権事項であってはならない、野党の民間の国民世論も外国に届けなければいけないと弁護士猿田佐世さんが有志と立ち上げて10年になる。小誌の知人は「NDの活動は、僕にとって希望の星のひとつです」と話した。同感である。6月のある日、ND代表の猿田さんの話を聞く機会があったので編集部の手でまとめて報告します。

動も自己満足的で地に足が付いてない感じがしてきたが、猿田さんのそれは違う。内外の政治・外交に携わっている人と直に（大事なことが）



小誌も参加した今年の6月14日国会議員会館講演 猿田佐世代表

自分がしゃべる英語で安保論を論じてきたのだから重みが違う。一度猿田さんが米国の外交官とやりとりしているさまを放映してもらいたいものだ。いや、これは野次馬根性かな。

台湾有事になれば「日本も闘う覚悟」と麻生副総裁は台湾現地で戦争を煽った。が、猿田さんは「日本は米国に戦争協力するとは限らない」と日頃から主張しておくべきだと説く。同時に「よう言わないだろうな」と嘆く。日本の世論調査では「25%の国民しか賛成していない」のにと。中国の武力進台駐は絶対反対だが、関係国が話し合う気があれば解決の道は見つけられると思う。麻生氏みたいに戦争したい人に介入させないことだが。北朝鮮と違い中国は反応が読めるから互いに冷静な対応を続ける間は起きないだろう。起こさずにはいけない。重要なことは戦争は互いに望んでないこと、現代の戦争は取り返しのつかない被害があることを理解することだ。米国の議会は安保の専門家が多いが、軍事派の彼らは自己の立場を擁護するかの如く中国脅威論を振りまき対中強硬論ばかり説くのに、各界

には中国との融和を説く有識者が多いそう。日本側からは自民党政権の意を受けた対米追隨の軍事強化の外務省路線しか米国に伝わらないと危機感を訴える。立憲民主党ですらたまに首脳訪米があつてそのアレンジをNDが引き受ける程度だそう。ドイツのように政党の事務所がワシントンに置かれることは無いと嘆く（1人駐米させるのはどれだけの費用がかかるか——と考えると制度を変えない限りしんどいだろう）。同時に時々政権交代できた方が官僚も偏って政権党におもねった思考ばかりにならず



本年7月訪中国の一員として

に、色々な思考、政策を持った官僚が育つから、政権交代させましよう。政権交代はできると猿田さん強調する。事務局長から代表に代った猿田

さんのまだ個人の負担が大きいのが心配である。NDの中でも外国の要人と安保論議を英語で闘わせられる人材を育てないといけないと強調し、かつお金が足りないとい会員を募る。外務省系の『国際問題研究所』の規模に較べると力量の差が明白である。我々もNDに関心と支援を続けよう。G7のみが世界の全てとばかりは思えない時代に入りつつある。BRICSに今年からサウジ、イラン、UAE、エチオピア、エジプトが加わった。人口の過半数、経済力でも近々G7を追い抜くだろう。グローバルサウスでは中米どちらにも付かない国策を互いに共同化しているとか。アジア諸国は更に中米の間をどううまく立ち向かうかの努力を続けているそう。NDは対米追隨外交だけでなく親米として意見も物申せなくてはいけないと説き、7月には野党の議員団や財界人と共に訪中するそう。猿田さんは憲法記念日の有明会場で「来年は一人の若い人をここに連れて来て下さい」と我々に宿題を出された。小誌もお願いしたい。「ライフクロッシングを1部若い人に渡して下さい」。

新外交イニシアティブ（ND）は、基地、原発、核、日米安保体制など、日本を取り巻く様々な問題について、政府が外交に運ばない声を、外交・政治に反映するために活動するNPO法人です。政府・企業から独立した民間シンクタンクとして、調査・研究はもとより訪米活動やメディアへのはたらきかけ、シンポジウムの開催、政策提言など様々な活動を行っています。活動は皆様の寄付・会費で成り立っています。入会いただき、お支え下さい。

日本の「食」パートⅡ

消費者が気づき

消費姿勢を変えれば

日本の食は蘇る

東京 岡山 眈生

命の源」であるこれら食の問題は、解決されないのでしょうか？ どこに課題があるのでしょうか？

私たちの消費力を自覚しよう

冷静になって問題を俯瞰すれば、つまり「生産と消費の原則」をきちんと考えれば原因やこの問題の解決が見えてきます。しかし、実際に解決するのは、想像以上に難しいとも言えます。

遺伝子組み換え種子問題、農薬使用問題、化学肥料使用問題、食の自給率問題など、日本の食については、「このままではいけない」と声を挙げている人たちも、団体もあります。食の専門家の中にも警鐘を鳴らしている人たちがいます。にもかかわらず、日本の食料自給率は下がる一方ですし、農薬問題も化学肥料問題も、遺伝子組み換え問題も、種子問題も、解決される気配がなく、むしろ悪化の道を辿っています。しかし、なぜ、いつまで経っても「人の

まず答えですが、誰も購入してくれない「モノ」を生産する「人」や「企業」はない、ということ。言い換えれば、消費者が、マスメディアが宣伝する「安く、便利で、簡単な」食料・食材を購入し続けることにこそ、「日本の食料問題が解決しな



い真の原因」があります。戦後80年近く、「1円でも安い食材を購入するのが賢い消費者である」と国民を洗脳し続けてきたマスメディアに、許し難い責任があることは否定できません。

しかし、しかしなのです。

ことは自分の健康、家族の健康と命の「源」である「食の問題」です。他人任せはまずいし、他人のせいにするのではありません。自分ごととして考える必要があります。

誰も買ってくれない、あるいはごく少数の人しか買ってくれない「食料」を手間暇かけて生産する人や団体や企業が少なくなるのは、誰でも分かることですし理解できることのはずです。どんな大企業が作る商品でも、そしてどんなに宣伝される商品でも、買ってくれる人が少ない、あるいは見向きもされなければ、生産中止、販売中止にならざるを得ません。

つまり、消費者の消費性向こそが、最強なのです。消費者の意思が生産を支配することを、私たち消費者は自覚し、行動する必要があるのです。「安全な食料を生産してくれ！」と言うだけでは駄目なのです。実際に「農薬を使用しない、化学肥料を使用しない、遺伝子組み換え種子を使用しない」食料しか買ってもらえないならば、生産者はそのような食料生産に必ず移行することでしょう。併せて、命の源である食料を生産する方達に、私たち消費者が感謝の気持ちを持って、真つ当な対価を支払って消費し続けるならば、食料生産に従事する人が減少し続ける「おかしい事態」が起こるはずありません。



かつて学生時代、政治学の最初の授業の際、「国民は、国民の平均レベルの政治しか手にすることはできないのだ」と教えられました。日本

の食の劣化を嘆く前に、日本の食の劣化現象の責任の一端は、私たち消費者の消費姿勢にあることを、私たちは自覚する必要があります。私たちは消費者の「正しい消費力の発揮」によってこそ、日本の食料問題は本当の解決に至ることができるわけです。

私たち人類は、人類以外の生き物の命を頂き、身体の成長と健康を維持しています。つまり、私たち一人一人の現在の身体状況は、生まれてから今日までの「食生活の集大成」であることを自覚する必要があります。同時に今後の食生活によって、今後の自分の身体状況が大きく変わって行くことも認識する必要があります。

「消費力という絶対的な力」を持つ私たちの消費性向によって、日本の食料問題を解決してみようじゃありませんか。元気な農村を復活させようじゃありませんか。



造物主からの伝言 ―その六―

自分らしく生きる



北里大学名誉教授 馬淵 清資

北米大陸に渡り鳥のような旅をするオオカバマダラという名の蝶がいる。この蝶は、春にメキシコの山林で生まれ、その夏の間に、三世代にわたって北上を続け、アメリカ大陸を縦断する。秋にカ



小さな蝶の三世代にわたる北米大陸縦断の旅

ナダに到達すると、そこで生まれた第四世代（あるいは第五世代）は、一気に四千キロほど南下してメキシコの山林に帰還し、そこで越冬する。狭い場所に大量に集まるので、蝶の重みで木の枝が折れることがあるそうだ。

鳥や魚の渡りは、一世代で里帰りする。それなら周囲環境の温度や匂い、星座の位置など、多くの情報をナビゲーションのよりどころにできる。しかし、オオカバマダラは、3世代前の先祖の生まれ

た故郷に帰る。それは、小さな蝶の遺伝子に、地球規模の位置情報が記憶されていることを意味する。これは、現在地を把握する能力も含めて神業である。

動物は、本能、すなわち遺伝子に記憶された情報に従って行動する。ヒトでさえ、生まれたばかりの赤ん坊は、純粹に本能に従って行動する。乳を飲み、泣く。そして、歩

く。そうした行動に必要な制御情報は、間違いなく遺伝子に記されている。ただし、ヒトの場合、成長して物心つく頃から、理性が行動を支配するようになる。

理性は、自立したシステム

であり、後天的に与えられた情報に臨機応変に対応する能力がある。情報を分析する作業を思考と言う。

それでも、行動のきっかけ（起点）は、常に、食欲、性欲といった本能、つまり遺伝子の掌中にある。ややこしいのは、欲望に従う行動が、理性によって、しばしば、抑止されることである。

自分らしく生きるのが良いと言っている一方で、本当は遊びたいのに勉強する。食欲ですら、ダイエットのために、我慢する。そして、我々は、そういう行動を努力と呼ぶ。つまり、努力とは、遺伝子という上位の存在に対する理性の造反行為である。それは、精神を混乱させるので、ストレスを生む。

オオカバマダラの壮大な旅は、本能に従う行動で成り立っている。全く「努力」せずに、大仕事をなしている。理性を持たない動物、もちろん植物も、「努力」とは、無縁なのである。ヒトだけが、

辛い努力をする。それが人類の繁栄をもたらしたようなので、致し方ないのだが、おかしな話である。

本能と理性の軋轢は、社会問題を起す場合がある。た

とえば、我が国における、少子化問題である。

子どもを生んで育てるのは、哺乳動物の本能的行動である。よって、十分な環境があれば、個体数は維持できるはずだ。

政府や行政の人たちは、経済的な支援で環境を改善するという対策を考えている。しかし、戦後の貧しい時期に人口は増加したのだから、経済的な問題ではないことは、明らかだ。少子化を来す環境変



昭和28年 筆者3歳

化は、別の視点で考える必要がある。

私は、名古屋の中心地で育った。三歳の頃、自宅前の道路で、日がな一日遊んでいた。飼犬に子守をさせて、親は、他ごとをしていたようだ。そして、春には、近所の畑でモンシロチョウを追

夏には、雑木林でカブトムシ取りに明け暮れた。

現代社会では、子供のこうした暮らしは、許されない。空き地や雑木林は片端から排除され、道路や建築物が、生活の利便性のために作られた。その結果、過去にありふれていた子供達の自由な遊び場は、失われてしまった。そして、子供から目が離せないため、親の負担が増した。それは、結婚して子供を作るというありふれた行動を難しくした。

ヒトは、自然の一部ではない。しかし、常識的には、人工的な事物は、自然から除外されている。理性の生み出した環境は、本能に従って生きる自然環境から乖離しているからだ。

「自分らしく生きる」のは、紛れもなく、先天的な本能が命じる方向である。それは、地球の生命史を歩んできた遺伝子というシステムが、種の保存に最適という評価を下した行動パターンである。そのため、子供達が、「自分らしく生きる」ことのできる環境をとりもどすことは、とても重要である。おそらく、それが、我々が子孫を残す唯一の方法となるだろう。

「安倍の政治を許さない」と叫びながら 「安倍の政治を許し続けて来た」我々は やりかたを抜本的に考え直さなければいけない(上)

東京 三田 栄考

この6月大阪地裁は（黒川元東京高検検事長の定年の延長を巡る法務省の文書の不開示決定の一部を取り消した）ことを各新聞が大きく報道された。安倍首相がお気に入り、黒川氏を検事総長に据えるべく（定年退官を間近に控え

た黒川氏の定年を延長する為に（安倍首相が）法解釈の変更をしようとした」と認めた。安倍氏は検事総長の人事まで意のままにしようとしたわけだ。が、結局は安倍氏の意向の黒川検事総長が実現できなかったのは広範な我々の運動が勝利したのではない。黒川氏の賭け麻雀が週刊文春に報道されて失脚したからだ。安倍の政治を許さないと言いつつ、好き勝手され続けて来た。しかも彼の終焉は社会が全くと言って良いほど問題にして来なかった世界統一教会に恨みを抱く男の仕業であって、我々は彼の政治生命に一指も触れることもできなかったわけだ。森友・加計学園・公文書書き替・桜を見る会等々野党や我々は追及しきれなかった、安倍氏の意味で首相の座は菅義偉氏に無傷で引き継がれた。彼は改憲（実質的には改憲済み）以外のやりたいことは何でも実行できた。あんなに暴政を振るわれても我々は何一つ阻止も糾弾にも成功できていないのを自覚すべきだ。作家澤地久枝さんが始めた言葉だが。

許さないと言いつつ許し続けた責任を認めることから始めよう。我々の運動の手法を抜本的に改めるべきである。もはや旧来の手法では保守党の復古・国家主義を止められないと自覚すべきだ。闘い方を根本的に変えなければ今後も負け続けると学ぶべきである。その後も円安の物価



安倍の政治を許さないと叫びつつ安倍も菅も岸田の政治も許し続けている人々

高、格差拡大、軍事費倍増、原発の再稼働、敵基地攻撃能力などなど連戦連敗が続いている。それは世論をバックにして自民党が国会で政権を握っているからだ。政権党は90%政策を実行できる。野党は政治資金規正法が良い例だが世論があればどのバックが

あっても殆ど自民党案のままで成立になった。ともかく世論を味方にして安定的に政権をとらないことには何もできない。一つは悪い事態が刻々と近づいて来ているのをまだ気がつきませんか？ かつて本誌で元朝日新聞の探見の森治郎氏が指摘された。『指1本憲法に触れてはいけくないでは肝心の元も子もなくなると『守るべきは9条と言うよりも平和主義』である。9条はそのまま等と、本音を隠した自民党の虚を突き、加憲の代わりに『より明確に平和主義、専守防衛の語句』を入れさせず戦略も必要だと説かれた。次期首相の一番人気は石破元幹事長である。自派閥も衰退解消するほど党内では不人気だった。が、庶民にはこわもての顔なのに何となくソフト路線を感じさせる石破を総裁にして、『はい、自民党は生まれ変わりました』とごまかそうとするだろう。野党は「安倍、岸田、現政権政策が悪い」とのみ追及している。違う『保守党の体質である。資本主義の本質である。システムを変えなければいけない』と主張すべきだ。その

石破は『憲法9条の戦力は持たない』の削除を総裁選で訴える」そうだ。今でさえ軍事費倍増しようとするくらいだから、勝つても成らなくても軍備増強、軍国主義を進め平和外交は消し飛ばさう。だから護憲だけを叫ばないで、無党派中道も引き入れる政策をとるべきだ。もっと高度な戦略をとれないのか？ 二つは先の都知事選挙でネットを駆使した石丸氏が予想外に大健闘して立民、共産の蓮舫氏を抑えて二位になった。かつて若者は革新と言われたが今や革新はシニア層の党になった。のぼりやプラカードを掲げるよりもITやネットの勉強会を開いた方が革新的だ。シニアにはそれは無理だの声が聞こえる。無理だから教える、学ぶべきなのです。革新派勢力はシニア層がネットを使えないからネット戦術の採用を怠って時代遅れになりつつある。つまりシニア層の存在が革新勢力の脱皮を阻害している——こう書く読者からお叱りを受けるだろうから皆さんのご批判をいただいて三つ目以降は次号に書かせていただく。

立憲民主党は

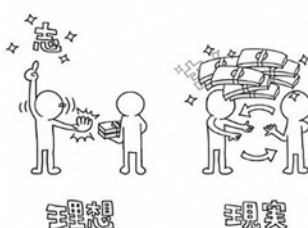
現実路線に変更すべき

大阪 貴澄 ハル

まず筆者自身（私）は基本保守的な位置にいます。思っています。だからと言って何があっても自民党を信じて応援することもないし、むしろ昨今の自民党に対しては「ぶつづればいい」と呆れているくらいで、日本国民が総じて幸福になるのであれば「どんな政党・どんな指導者が主導権を握ってもいい」とも思います。

それでは現在の「情けない自民党」が下野して、野党第一党である立憲民主党に政治を任せたいかと問われれば、立憲民主党シンパの皆さんには申し訳ありませんが、NOと言わざるを得ません。

その理由は「政治理念が違う」とか「目指す理想世界が違う」のような観念的なものではないません。それは「現実世界への対処」です。



ストックホルム国際平和研究所は「中国が保有する核弾頭の数が増え続ける」と報告しました。※6月18日のNHKニュース

さらに同日「南シナ海で、中国海警がフィリピン補給船に体当たりし、フィリピン人の一人が指を切断する重傷を負った」ニュースが報じられました。※AFP記事

南シナ海の領有権問題は、もともと中国の勝手な領有権を主張する「九段線」を設定

したことに端を発しますが、それに関しては2016年にハーグの常設仲裁裁判所が「（南シナ海での中国の領有権主張は）法的根拠が無く、国際法に違反する」と判断を下しています。

中国の横暴は南シナ海だけにとどまりません。台湾問題にしてもそうだし、大陸で隣接する南モンゴルやチベット、ウイグル地区に侵攻し、ついには占領し自国領土にしてしまいました。過去数百年前の歴史ならともかく、これらはわずかここ数十年のできごとです。

一連の中国の横暴に対して、民主主義と人権尊重を共通の価値観とする欧米諸国は強い懸念を表明し、実際に経済制裁を行ったり、ことあるごとに中国を強い口調で非難しています。

さて日本は…といえば、与党の中国に対する姿勢は弱腰で遺憾表明を繰り返すだけ。岸田首相自ら政治資金パーティーで中国人・中国企業から大量のパーティー券を買ってもらっている。さらには親中・媚中派と呼ばれる議員はその多くが何らかの利権を得



ているため、中国に対してまったく強く言うことをしません。もはや与党そのものが売国と言えないこともない。それでは与党の情けない対応に比して立憲民主党の対応はどうでしょうか。一連の中国の横暴に対して、防衛費増大もやむなしと考える政府に「二にも二にも対話。まず対話が大事」と異議を唱えています。憲法改正では議論にさえ応じません。この姿勢はあまりにも現実とかけ離れています。

「てめえら人間じゃねえ！叩つ斬つてやる！」は有名な時代劇『破れ傘刀舟』のセリフですが、もし刀舟が剣の達人ではなく一介の医師だとしたら「あなたたちのやっていることは間違っている。対話に応じるべきだ」と言えば、悪者は対話に応じるでしょう

か。しかし「刀舟が剣の達人である」と知っていれば、悪者だって多少は対話に応じるでしょう。

同じ民主党から分かれた国民民主党ははっきり現実政略路線を打ち出しています。玉木代表や榛葉幹事長は立憲民主党の姿勢にはつきりノーを突き付けています。立憲民主党に比べてどうしても構成員が少なかったため、与党や他野党へ及ぼす影響が小さいのは残念ですが、個人的には大いに評価しています。

いま自民党は「政治と金」の問題で国民から愛想を尽かされようとしています。野党第一党である立憲民主党の大チャンスです。

勿体ない。実に勿体ない。欧州では現与党に対する保守派の台頭が始まっています。先のイギリス総選挙（7月4日投票）では野党が地滑りの勝利を収め歴史的な政権交代を実現しました。これが世界の潮流です。もし現実政略路線を歩まず、極左に近いような人々へ支持を訴えるなら、立憲民主党が政権を取るのには「夢の夢」になってしまうと思います。

「我思う、故に我在り」

デカルトの言葉を

拝借して勝手に政治解釈

大阪府藤井寺市 松井 学



「今の政治はあまりにも酷（ひど）い」とは多くの皆さんが感じていらつしやることでしょう。しかしその原因の多くは、私たち自身の選択の結果にあると言えなくもありません。非常に形骸化されてしまったとは言え、日本国の運営形態は、議会制民主主義の形態をとっています。そして私たちの選んだ代議士が私たちに代わって政治を担うと言う形態をとっています。

考えてみれば、その政治家を選んだのは私たち国民自身であります。理屈から言えば、「今の政治が悪いのは国民のせいでもある」と言えなくもありません。

ですから、政治を正常な状態に戻すには、まず、私たち国民の一人一人が常に周りの事象・情報をちゃんと把握す

る努力から始めるべきです。

テレビや新聞などのマスコミ、御用学者の言葉・情報等に惑わされがちな現況にあつては、常に己の眼（まなこ）を見開き「果たして彼ら（マスコミ）の言っていることが正しいのだろうか」「この情報には間違いはないのであろうか」と疑うことから始めるべきです。それがデカルトの

「我思う」に通じるのだと思います。

少しタイムスリップし時代を戻し、ここに「我思う」をしない二人の若者に世相を語ってもらいましょう。

浪花村の若者「わが浪花村の殿様は立派である。村始まって以来のイケメンで多くの村人に支持されている。それに比べ江戸村の女殿様は全然ダメだ。『環境に優しい100年の森』これを伐採すると言う、いくら村人が止めてくれ！と声を上げてても、聞く耳を持たない」

江戸村の若者「わが江戸村の女殿様こそ立派である。外国の大学を首席で卒業した才女だ。浪花村の殿様こそ、ゴミ島を埋め立てて博打場を誘致、その上ガス爆発が起きている会場で万博を開き、そこへ子供の遠足を促すとはどんな料簡だ」

重税に打ちひしがれるあまり、目の前の事象に対して判断能力を失った二人の若者が繰り広げるおなじみの殿様自慢です。

この二人の共通点は「朝からひっきりなしに垂れ流されるテレビのニュースや情報を

そのまま信じ、他所は知らないが、自分たちの村はうまくやっているんだと信じ込んでいるところ」に在ります。これこそ「我思う」に至っていない例だと言えます。

そうなのです、「我思う」に必要なのは、まずは、チャンとした情報です。自分の頭でチャンと考えることができる、そのための正確な情報を得ることが大前提なのです。嘘の情報ではなくチャンとした情報が頭に入っていてこそなのです。

一事が万事（いちじがばんじ）と言う諺があります。のつけから嘘をつく、なのには次回は、チャンとした正直な情報を皆さんにお伝えします。なうんてことは、ぜうつたいにありません。

何度も嘘をつく、そのような人間に、貴方は大切な自分の命や貯金を預けますか？それも、幾年もの間、預けますか？

自分の事だったら、こんなバカはぜうつたいにしないでしょう。

当然です。

政治とは、本来高潔な人間がその執務を執り行すべきモノ

ノなんです。

何故なら、選ばれた政治家には、国民の生活、命、財産、健康、幸せの全てを左右するほどの強大で強力な権限が付与されるからです。まともな政治を取り戻すなら、まずは、嘘をつく人間を政治家に選ばないことです。

嘘をつく人間が大手デパートと強烈に癒着しているなら尚更のことです。政治とは、本来高潔な人間が執りおこなうべきモノなんです。

我思う…誰のための政治？

我思う…何のための政治？

我思う…誰のための税金？

嘘つき人間には、この3つの大切な理念を理解することはできません。

これだけは確信を持って言えます。



市民と野党の共同で、 都知事・都議補選を取組んで

東京江東区
市民連合 内田 敬三

酒井なつみ氏が「市民と野党の共同候補」として立候補を決意、東京15区補選をとものにたかった。「まっとうな政治」実現へ、酒井さんらしさを生かしながら選挙戦だった。



6・5集会（江東区）

所に酒井さんが現れ、いつもの落ち着いた様子でインタビューに答えていた姿が印象に残っている。

画期的だった6・5決起集会

蓮舫さんが「市民と野党の共同候補」として「古い政治ときっぱり決別、東京から政治を変える」と決意された。

6月5日「酒井さん勝利と都知事選、都議補選勝利をめざす決起集会」を開いた。立民党酒井なつみ衆議院議員、共産党山添拓参議院議員、社民党都連伊地知書記長が挨拶、市民の声・江東からメッセージが寄せられた。

た。投票日4月28日午後8時前、市民連合メンバーと一緒に「酒井なつみ選挙事務所」を訪れ、結果を待った。テレビ用ライトの熱気が部屋を覆い、「これはひょっとしていいけるんじゃないか」と初めて思った。午後8時過ぎNHKニュースが、当確を知らせた。喜びがこみ上げた。事務

江東区では、都議補選も実施。15区補選に続き「市民と野党の共同」候補擁立が模索された。共産党候補の大つきおかりさんが立候補を決意、立憲民主党など立憲野党が支援を決めた。決起集会の場で、江東市民連合と共産党の間で都議補選に向けた確認書



市民街宣門仲

が交わされた。

6月18日の全都決起集会（中野ゼロホール）は忘れることができない。杉並区からの発言に続いて、わが江東市民連合代表が運動の報告と決意を発言し、たたかいの体制ができた。

残念だった選挙結果 都知事選

「現役世代の手取りを増やす」「もっと多様で生きやすく」など7つの約束を発表し、新しい都政実現の期待が膨らんだが、くやしい結果となった。

以下、個人的な感想を記す。支持を訴える中で、「蓮舫さんはきつい」「蓮舫さんには

入れない」という素朴な声にぶつかった。15区補選でも、酒井さんに違和感を感じる有権者が当初一定いたが、選挙戦終盤ではなくなっていた。ところが、今回は選挙戦終盤になっても「きつい」「入れない」という声がなくならなかった。マスコミやネットでの執拗な「ネガティブキャンペーン」の影響を感じた。公営掲示板の連舫ポスターに「皇居のある日本の首都東京の長に絶対に外人は駄目です。日本の恥です。外人は不要!」「外人は駄目 都民よ目覚めよ」との違法な張り紙がされたことが選挙後わかった。人権侵害、排外主義そのものだ。絶対に許してはいけない。

石丸旋風

これには無防備であった。YouTube、TikTokで何が進行していたか? 気がついた時には、有力4候補の一人にあげられていた。のちに石丸氏を支えた政治勢力が明らかにになったが、対応が遅かった。

論戦から逃げる小池百合子

戦術的に最も老獪であった。自民、公明の固い支持を背景に、政策論争を避け、逃げに徹した。

都議補選（江東区）

裏金問題をまともに答えられず、「今回は自民党に投票でなく、私に投票を」と訴えた自民党候補は落選した。有権者は、自民党政治を拒否した。しかし、市民と野党の共同候補「大つきおかり」さんは、約35000の得票を得たが4位にとどまった。既成政党批判を展開した無所属候補が1位となった。

次につながった 江東市民連合の行動

市民運動のセンターとして、「砂町銀座」のど真ん中に、「市民Gateこうとう」を開いた。会員さんの制作した絵も飾っただけあって、絵だけを見に来る人も。ふらっと立ち寄って、政治の話をしていく人もいた。神宮外苑問題を取り上げ、シール投票を行った。反対が239人、賛成が5人。これまでかわりのなかった人たちが参加した。市民と野党の共同街宣10回実施。酒井なつみ衆議院議員や間庭区議も街宣に参加した。「連舫候補砂銀練り歩き」では、蓮舫さんと200名の区民が握手できた。一人街宣10名など次の一手につながる取り組みができた。

シルクロードは東は西安を起点にし、西はヨーロッパへと繋がる交易のルートである。私は中国語の仲間と中国のシルクロードを旅し、シルクロードが大変気に入りました。中国の南西アフガニスタンに接するパミール高原まで

中央アジア4カ国周遊10日の旅(上編) シルクロードの十字路

兵庫県加古川市 藤田 新三



ウズベキスタン古都サマルカンドのレジスタン広場にて

つけ、心躍る思いで参加したので、ここに紹介したい。併せて旅の合間に描いたスケッチ画も載せさせていただくのでご覧ください。レジスタン広場でスケッチしているとトルコからきたという若い女性が写真を撮らせてほしいと

も行き、シルクロードの魅力に引かれました。そこで中国の西にある中央アジアを訪問したいと思い、適当なツアーを探しているうちに、コロナ禍となり、海外旅行ができなくなった。コロナ禍が明け、今年になり、このツアーを見

言ってきた。てつきり一緒に撮ろうということかと思っただが、スケッチ姿を取りたいとのことでもまだ描き初めてでした。撮ってもらいました。じゃ一緒に写真を撮りましょうと若いトルコ女性達と写真に納まりました。



天山山脈

5月のある日閑空に集まった人々は辺鄙(?)な国々をトライするだけあって、旅慣れた一同が勢揃いしソウル経由で見知らぬ国々に向った。4カ国とはウズベキスタン、カザフスタン、タジキスタン、キルギスである。総じてこんな話になる。いずれもソ連邦の国々で、ソ連崩壊後に独立した。それぞれ民族は異なるが、ロシア語もよく通じるらしく、現在もソ連時代の影響が色濃く残っている。社会主義時代の習慣が残っている。サード精神はない。キルギスからウズベキスタンへの入国審査では西洋人の団体が一括して裏から入国していた。ガイドの話として「賄賂を渡して早くしてもらった」とのこと。次に誰し

も関心のあるトイレ事情であるが、街の中はまず問題はない。しかし郊外の観光地ではまだ完備とはとても言えない。穴を掘り2枚の板を渡したような場所も2、3か所あった。女性の旅人がどう対応したか聞くのを憚られた。正にトイレをしながらお隣さんに「称好ニイハオ(こんにちは)」である。使用に際しレストランは無料であるが、一般には20円から50円くらいお金が必要。表示や説明がロシア語と現地言葉でキリル文字なので、理解が全くできなかった。国名にあるスタンとはペルシャ語系起源で「国・地域」を表わすそう。宗教はほぼ4カ国共にイスラムだが、民族はそれぞれの民族以外に、歴史上とったり取られたりで、多くの民族が混在している。バザールに行けば民族独特のものを売っており、ガイドの説明では「民族のつぼ」と言っていた。私たちはキルギス人か、カザフ人か、ウズベク人か分からないが、現地の人はずぐわかるらしい。朝鮮民族までいて、いろんな種類のキムチを売っていた。朝鮮民族はスターリンに

より極東から強制移住させられ、住み着いた人たちです。まずメインの国ウズベキスタンについて述べよう。14世紀、中世の英雄チムールがサマルカンドに建国したトルコ系モンゴル系のイスラム国家で、中央アジアから西アジアを支配する大帝帝国であった。モンゴル帝国から引継ぎ第一次世界大戦へとつないだオスマン帝国への橋渡した帝国だ。私はかつての都のタシュケントからスペイン技術の特色に乗った。乗り心地は良くなかった。タシュケントは青い屋根のモスクも多いが、近代的なビルも多く、シルクロードのオアシスの街の面影はない。降りた町、世界遺産サマルカンドは「青の都」と称せられるきれいな街である。首都のタシュケントはビルが立ち並び地下鉄もあり、立派な近代都市である。ただ、きれいなモスクも多く、特に「青の都」サマルカンドはインドのタージマハールにも匹敵する建物群のレジスタン広場や、近くのシャーヒズインダ廟群等壮大で圧巻である。続きの話は次号にてさせていただきます。

人々の風景

連載
第26回

チェーザレ・パヴェーゼ

人が生み出す
狂気への憎悪

鎌倉在住 市川 隼

欧州の歴史は、人々の戦いの歴史だった。数え切れない戦いがあり、人々が殺戮され、悲哀が充満し、憎悪が増幅された。第二次世界大戦が終わってから80年の間にも、醜い戦争が続き、今でもロシアのウクライナへの侵略は続いている。ヒットラーのユダヤ人への迫害や殺戮は、「アウシュヴィッツ」と呼ばれる言葉となって、人の狂気への戒めとして、人々の心へ届いたはずだった。アンネ・フランクの『アンネの日記』の前で多くの人々は涙を流し、奇

跡的に救出された化学者でもあり、ストレーガー賞受賞作家・詩人でもあったイタリア人プリーモ・レーヴィの『これが人間か（アウシュヴィッツは終わらない）』は、『アンネの日記』と同様に読み継がれている。それなのに何故なのか。正に現代の今、狂気の被害者だったイスラエルの政権はガザを封鎖し、無差別攻撃の構えを崩さず、加害者の立場に身を置いている。



チェーザレ・パヴェーゼ(HP)

レーヴィと同様、ファシズムに生を傷つけられながら作家活動を続け、イタリアの最高の文学賞ストレーガー賞を受賞した詩人・作家が、チェーザレ・パヴェーゼであった。パヴェーゼは、トリノとジェノヴァの間の丘陵の村サント・ステファノー・ボルバで、1908年9月9日に生まれ、42歳の誕生日前の8月27日に、トリノの駅前のホテルで、自死の道を選んだ。

パヴェーゼはトリノ大学で、ギリシャ・ラテン古典文学、英米文学を学び、卒業論文ではホイットマンを選び、



関連書籍

卒業後、アメリカ文学の評論を手掛け、メルビルの『白鯨』やジェイムズ・ジョイス『若き芸術家の肖像』の翻訳に勤しんだ。雑誌「クルトゥーラ」の編集長を友人レオーネ・ジンズブルクから受け継いだのが34年だったが、35年5月13日に官憲により反ファシスト知識人(約200人)の一人として一斉検挙され、イタリア南部のブランクレオーネへの3年の流刑となった。恩赦で36年3月15日に釈

放されたが、その時の体験に基づき綴った最初の長編作品が『流刑(牢獄)』であり、最後の作品は、自死する直前に書かれた『月と篝火』だった。ストレーガー賞を受賞した『美しい夏へ美しい夏・丘の上の悪魔・女だけの世界の合本V』は49年の作品で、自死する2ヶ月前の受賞だった。

日本やドイツでは、終戦は内部からの力ではなく、外部の力によって齎されたが、イタリアでは、反ファシズムのバルチザンの内戦の戦いが終戦を齎し、王政を廃止に追いやった。スペインでは、ファシズム国家の支援によってフランコ政権が成立し共和制が倒されたが、36年から39年に掛けて、人民戦線がフランコ政権に反旗を翻し、内戦が続いた。91年からの10年間の内戦を経てユーゴスラビアは解体され、6カ国の独立国家が成立した。国家間の戦いも、国家内の内戦も、人々の血が流される悲惨さに軽重はないが、昨日迄の友や男女が敵味方に引き裂かれる内戦は、人々の心に癒し難い深い傷を植え付けた。パヴェーゼの青春は、その様な時代に培われ、内戦

によって齎された異様な空間での、同性間や異性間の諍いや悲しみが作品に描かれた。『月と篝火』では、主人公の故郷で生じた、ファシストに内通した疑いでバルチザンの村人に死に追いやられた少女サントリーナが描かれ、『美しい夏』や『女だけの世界』に登場する女性達には、パヴェーゼが官憲から守り抜きながら失恋し、パヴェーゼから去った、反ファシズムの活動家だった女性の影が落とされた。最初の長編『流刑地(牢獄)』は、『丘の家』と合本された『鶏の鳴く前に』と云う題で、10年後の自死した年に公刊されている。パヴェーゼの翻訳家で研究者の河島英昭(東京外語名誉教授)は、新約聖書マタイ伝第26章に描かれたイエスのペテロへの言葉「今夜鶏が鳴く前に貴方は三度私を知らないというだろう」からの引用だったと示唆しているが、この言葉の深淵に、自死の意味が隠されているのか。神が造り出した人々の狂気は、神が造り出した狂気なのか。パヴェーゼの自死の謎解きは、読者に与えられた宿題のようでもある。

秀吉！このあほうが！

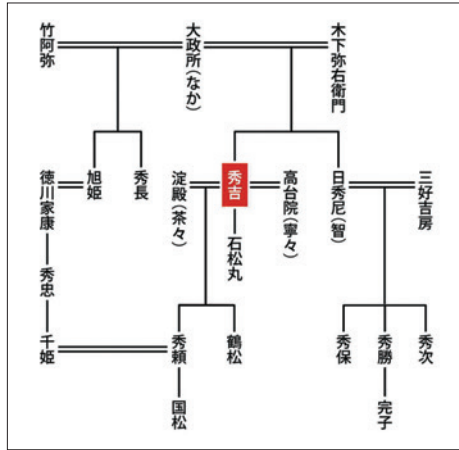
作・秀吉実姉（とも）



尼僧姿のとも

時は慶長3年（1598年）8月18日（旧暦）、処は京は伏見城の本丸（昭和の再建模範天守の位置とは異なり、当時は今の明治天皇陵辺り）。天下人たる豊臣秀吉に死期が迫っていた。尾張の片田舎で弟日吉丸と育った（とも）は人知れず1人で弟の病床に近寄り、そつと声を掛けた。

秀吉、聞こえたら目を開けるんじゃないか。返事はいらんか。わしの話を聞くんじゃないぞ。お前は生涯はどうじゃった？ 天下人などと言われて満足か？



豊臣家とも家系図

わしや、尾張の百姓で終えたかったぞ。今も後世もそなたをもてはやす者がおるじやろうが、わしはそうは思わんぞ。何が辞世の歌ぞ（露と落ち露と消えにし 我が身かな浪速のことも夢のまた夢）こんなのは後の世の人がさもありなんと詠んだものじやろう。そなたが謙虚に詠めることはあるまい。浪速の秀頼が心配なら、そなたも分つていよう三河の狸爺いが今に大坂城も秀頼も亡き者にするだろ

うに。若い時のそなたなら死ぬ前に三河を先に手を打っておいただろうに。

天下を取ってからのそなたは古いばれ秀吉で、権力者の横暴を続けたな。それも人様に迷惑を掛け続けて来たな。そなたが目掛けていた利休居士に大徳寺の山門の木像をこじつけて切腹に追いやるのはなにごとぞ。日の本の茶の湯の家元ぞ。後の世では茶の湯と言えば利休と言われ、裏千家、表千家も祖ぞ。あの方をなくして日本の茶の文化は語れぬと言われているぞ。いやいや、愚かな権力者に抗して死を選んだからこそ余計に讃えられることに成ったのかも知れんな。利休はそれを承知で死を選んだのなら皮肉なことよ。そちやおかしなことに木像に腹を立てたくせに金毛閣の利休像は現代も健在なのは利休の娘お吟様に懸想して振られた恨みがほんとなんじやろ。

何よりもけしからんのはそなたの朝鮮侵略よ。後の世では朝鮮征伐とも言ったそうだな。征伐などとは悪いことをした者を懲らしめることぞ。今朝鮮の民は何をしたのか。今では朝鮮出兵とか言い直しているが、我が国が明らかに悪いのに侵略と言わないのは自国を良しとする誤った風潮よな。そちや、彼の国の人の首の代わりに多くの耳を切り取って持ち帰らせた。そなたが作らせた方広寺の門前に2つの耳塚が令和の今も残されているのを日本人は忘れてしもうて……。しかし、朝鮮からの観光客は剃り取られた2万人の耳塚の前で涙しておるぞ。太閤様とまではやす日本人もおようが、朝鮮では一番嫌いな日本人は秀吉、いや憎むべき日本人はそなたが一番で嫌日の象徴だそうなの。何と罪なことをしたのか。

まだあるぞ、秀吉、あの世に行く前に聞きなされ。そなたの女狂いが激しくて、長浜時代の秀勝を幼くして死なせて以来鶴松までできなんだ。その鶴松も死なれて諦めてそなたはわれの子秀次を養子となし関白まで譲ったのに、秀頼が生まれて秀次が邪魔になり秀次を高野山に追いやり切腹させてしもうた。親であり姉であるこのともに一言も告げずに。何たる弟ぞ。あの時は弟とは思うまいと思ったぞ。それも可哀そうに秀次の妻や側妻や幼子まで39人が打ち首で令和に世に三条大橋西の袂の瑞泉寺にひっそりと秀次の首石棺の前に哀れな女子供の墓があつて訪れるわずかな人の涙を誘っているそうなの。それに飽き足らずそなたは一族や家臣まで次々に連座と称し罪に落とし入れた者の数知れん。

秀吉、もう目をつぶって良いぞ。あの世で秀次に笑われておいで。

豊臣とも：秀吉の同母姉、家康に嫁した朝日姫や来年の大河ドラマの主人公秀長の異父姉。夫は元農民で阿波の三好家の三好吉房と称す。秀吉の養子次男秀勝は文禄の役で巨済島で病死。三男秀保は秀長の養子で十津川で病死。孫娘お菊の夏の陣後に処刑。とも自身は92歳で京都で死去。

北の関ヶ原(下)

東京練馬

阿部

敏夫

歴史は常に勝者の歴史である。それでも敗者の記録が正史を超えて魅力的な例外もある。

能吏であった石田三成が徳川の諸将をまとめて関ヶ原

る。主に経済人が息の長い戦略に会社の歴史を当てはめたのだ。

歴史家が見落とした事実を小説家が自分の感性で弱点を補強したのである。



上杉軍は、1600年9月8日に米沢を出陣し、同時に庄内地方からも兵を出し、2方面からの最上領侵攻を開始します。上杉軍を包囲殲滅する予定だった最上義光が逆に挟撃されるという戦いでした

で決戦に挑むのは秀吉の臣下としては当然の決断であった。私が子供の頃はどの本を読んでも徳川家康は、たぬき親父と評され人氣がなかった。それが山岡莊八の長編「徳川家康」によって評価が急転す

例えば過大評価に過ぎると思われるのだが、司馬遼太郎が描く坂本龍馬像は著作やメディアの力が視点を大きく変化した。本稿は敗者の側の事実を少しでも知ることによって歴史の正当性に迫るこ

とにある。

豊臣秀吉の政權下、注目すべき人事は石田三成の重用である。五奉行の一人として存分に、その能力を発揮させる。元来、本人がその出自にこだわる必要がないので三成の才能を生かすことが出来た。

直江兼統の誕生は永禄三(1560)年、石田三成も同年の生れである。それぞれの立場で手紙(公式文書)をやりとりするうちに好感をいだくようになる。25歳の時だ。秀吉亡きあと、遺児秀頼に政権を頼り、三成の行動は創業家の二代目相続に尽力する本家思いに相似する。

米沢城を出陣し山形城の最上義光をめざす直江兼統の軍勢は二万の大軍と言われる。慶長五(1600)年九月二日早朝のことである(異説もある)。

注目すべきは現在上杉神社に所蔵の兼統の兜の前立て「愛」の文字。

九月十五日の関ヶ原決戦の前に『北の関ヶ原』とも言われる出羽山形の長谷堂城を中心とした血戦が繰り広げられた。その頃、徳川家康は何処にいたか。奥羽白河に程近い小山で上杉景勝との一大血戦

にそなえて作戦を練っていた。二年前、秀吉逝去にあたり遺品の分配は前田利家亭で行われる。この時、徳川家康は遠浦帰帆絵と金子三百枚、上杉景勝には鷹の絵、石田三成に古光脇差と金子五十枚。そして直江兼統には兼光脇差である。

この時まで東西、敵味方に別れるまで、皆秀吉の門下であったのだ。勢力を拡大する徳川と秀頼を重視する後継争いの戦いが関ヶ原での決戦であり「北の関ヶ原」の存在理由だ。一方の当事者、最上義光背景に伊達政宗を思えば景勝、兼統も軽々には動けない。

上杉、直江軍に勝利の機会があったとすれば徳川家康が小山から引き返す時だったと巷間誰もが言う。多分それは当たっている。直江状で家康を激怒させる程の覚悟がありながら上杉はなぜ動かなかったのだろうか。北の関ヶ原で実質、反徳川の錦織を鮮明にしながらだ。

それは総力戦になった時、確実に勝利し日本国全土に神経の行き届いた政權確立に自信を持てなかったからではないのか。景勝が五大老の一人と

して相応の発言力をもっていたとしても野心はなかったと考えるのが自然ではなからうか。むしろ兼統の方に可能性を重視した「直江状」の挑戦的言辞を読むべきであろう。

家康を追撃すべきとの遺言を押さえた景勝の冷静な決断を評価すべきであろう。それは結果として30万石に減った領国で苦難の道を歩むことになるにしても。

実は北の関ヶ原での戦いに直江兼統は勝利したわけではなかった。最上軍の決死の抵抗にあい長谷堂城を落とせなかった。畑谷城をはじめ最上領の支城を着実に攻略してあと一歩の攻防で15日間を要している。

慶長五年九月二日、米沢城を出陣した「愛の前立て」は九月十五日、関ヶ原で三成の西軍は、たった一日で家康の東軍に敗北したのを知る。兼統がその知らせを得たのは一週間後のことである。

兼統が最後尾をつとめ直江軍は米沢に向けて退却を始める。この時の退却の見事さは今でも地元では語りぐさになっている。

本稿は以下の著作を参考にしました。

続・山辺夜話 武田泰造著 山辺町郷土史同好会 直江兼統伝 渡部恵吉他2名 酸漿出版 直江兼統とお船 幻冬舎新書
天地人を歩く 火坂雅志 祥伝社 さむらい道 高橋義夫 中央公論社 他各資料

映画監督にして画家 増山麗奈の駆け巡り!

第24話

2年間の経済制裁がロシア市民生活に与えた打撃とは
～現地国際映画祭審査員参加した筆者が語る～



6月下旬に1週間ロシアのソチで開催された「アンタレス映画祭」に審査員として参加した。西欧諸国による2年前の経済制裁によるロシア国内での影響を滞在地ソチでの生活から紹介します。日本からロシアへは送金着金一切できず、日本にはルーブルを両替できる場所は1箇所もない。ロシア国内では日本を含む西側のクレジットカードは一切使えず、ロシアのクレジットカードは向こうは鉄のカーテンの向こうは

想像を超える風景が広がっていた。モスクワに到着して驚くのは、デジタルデバイスの進化だ。街の至る所に巨大デジタルモニター、ハイセンスなCM映像が流れている。ロシアのクレジットカードを持つているものにはとても便利に整ったサービスが用意され、Uberやタクシー、全てのサービスがきめ細かく作られている。昨年にコロナ後初めて中露の民間の市民移動が許され、頻繁に飛行機が行き来していることも影響してか、空港や地下鉄にも中国語が表示され、中華マネーとの緊密さを感じさせる。ちなみに経済制裁後、販売網を引き上げた日本車に代



ドキュメンタリー部門グランプリ受賞ウズベキスタンのアジール・ウマリリエヴァ監督(右)と

ているものの、日常品の値上げは限定的で、円安を差し引いて考えてもヨーロッパ各国に比べると外食やスーパーの値段は七割程度。ヨーロッパや日本と違うのはガスや電気代が高騰していないところ。ファッションや下着なども比較的低価格で購入でき、その質も高い。スターバックやマクドナルドなどの欧米企業のブランド

わってロシアで人気なのはより低価格である程度の品質の中国車である。庶民に對してのインフレは起こっている



増山麗奈氏と日露合作映画「歳三の刀」ポスター

実はロシアの映画界は、この経済制裁でむしろ豊かになっているのだった。今まで市場を握っていたハリウッド映画が排除された分、ロシア政府は国内映画やトルコやイ

は、よく似たロゴのロシア国営企業運営になっている。味はほとんど一緒。値段はヨーロッパのスタバぐらいの高価格だ。アンタレス国際映画祭は、ロシア最大のリゾート地であるソチで開催された。29カ国五十作品が上映され、ハリウッドやインド、中国からも審査員が参加する国際的な祭典だ。映画祭は民間とロシア政府・州政府が共同出資し、実によく運営されていた。

インドなどのロシアにとっての友好国との共同映画に出資は、盛んに行われている。どうしてもみたい西側のアニメや映画は非公開で上映される。例えば「アバター」を上映するときは同時上映でロシアの無名監督の短編映画を組み込みその短編映画を買うという名目でアバターを見せるとのこと。表向きは非公式だが、アバターの配給会社にもキックバックが入っているだろう、と映画関係者は語る。宮崎駿の最新作「君は何のために生きるか」も全ロシアで公開され人気を博したとのこと。自国でガスなどのエネルギー資源と食料を十分賄えるロシアにとって、経済制裁はあまり効果がなかった。むしろ日本は日本製品のシェアを減らし、円安を迎え、燃料、原材料、食費の高騰など返り血を浴びている状態だ。稀有な縁で、日露の縁が途絶えていたこの三年、私は日露映画を作り、貴重な橋を守ってきた。このご縁、これから日本の皆さんにも活かしたいと願っている。

令和6年新潟県文化補助事業として、三味線演奏をしながら旅芸人として生きる瞽女文化を描いた映画「瞽女さの春(こぜさのはる)」(監督 増山麗奈 樽谷大助)を制作しています。11月8日～11月10日 東京で国際映画祭も企画しています。日本伝統や観光の魅力を文化を通じて世界に伝えます。ご協賛・協力いただける方はぜひご連絡ください。

チャンスは逃がすな

高橋 薫

入退院をくり返ししながら、ついに80歳で夫は帰らぬ人となった。共に歩んできた55年だった。とうとうお一人さまの自由の身となってしまうた。「どうしよう」その時、長年の夢だった海外旅行をしようと思いついた。

最初の旅は憧れのロシアに決めたが、今ひとつふんばりが利かない。迷っている」と長男が「行きた



いとこに行つて、たとえ死んでも本望ではないか」と応援してくれた。少し嫌味の利いた励ましの言葉に勇気づけられ、ついに成田へと一歩を踏み出した。お一人様の参加のツアーで

ある。次男が心配して成田空港まで送ってくれた。おかげで面倒な手続きも無事に終わった。

いよいよモスクワまでの10時間の搭乗である。勇気を出して人生ぎりぎり海外への旅に挑戦できたのも、少なからず、この頼もしき恩恵（ぐそく）二人の後押しがあったればこそと感謝している。

その後、ヨーロッパ、アメリカ、カナダと旅を続けているうちに、とうとう80歳を越えていた。体力もそろそろ限界だ。悔しいが、こ

あたりが止め時のようである。そこで最後に近場の「タイ王国」を観光して旅のしめくくりとした。まさに「チャンスは逃がすな」をモットーとした、思い出深い老いの青春の頑張り旅だった。

余録

当誌に「恭子の日記」として28回寄稿して来られた画柳会代表の中田恭子さんが本誌への掲載を主とした作品集《扉》を出されました。恭子さんの作品はいつも心温まるもので筆者の生き方も感じさせられます。どうして恭子さんはこのような暮らしの題材に出会うのか不思議に思うく

編集後記

心温まる原稿を読みたい。本誌に投稿して下さる方は学者や評論家、政治家、お医者様、芸術家そして一般の人々とさまざまです。「さすがは〇〇先生」と編集側が毎度感心する投稿や、一般の方であっても「玄人はだし」と編集側が唸る投稿にしょっちゅう出くわします。

編集部の悩みは、誌面の都合で「投稿のすべてを掲載できるわけではない」といったところでしょうか。たとえば20編掲載予定のところに30編の投稿があれば、

らいです。多分恭子さんの人柄、とりわけ子どもを愛する気持ちの人が心の機微に触れるのでしょうか。小誌としても皆さんに恭子さんの愛溢れる《扉》を読んでいただきたいと、これまで当誌に寄稿していただいたの方に本誌と共に同封させていただきます。中には漏れもあるかと思いますがご希望の方は小誌まで連絡下さい。（無料。手持ちが無くなればご容赦を）長崎生まれ

残念ながら10編は落とさないといいけません。しかしせっかくの素晴らしい投稿をボツにするのではなく、次号あるいは次々号へ掲載できるように、最善の努力をしております。

さてそれではどの作品を選ぶかですが、編集部の間でも意見が分かれることはしょっちゅうで、最終的には「私はこれがいいと思う」と声の大きい人の意見が通ります。（苦笑）もちろん編集部の全員が「私はこれがいいと思う」と異口同音に推す作品もあります。

今回、異口同音に推されたのが高橋薫さんのエッセイ「チャンスは逃がすな」でした。短い文の中に随所ウィットに富んだ

の恭子さんは小学校の先生、その後は自称、寺子屋を開いて50年。教え子は千人を越えます。他方、温かいテーマで絵筆をとり、画柳会の代表に推されました。作品は国内に収まらずスイスの国連やエジプトなどでも展示されています。今回出版を機に、絵と絵本とエッセイの個展を開かれています。8月12日～18日中央区銀座8-110画廊アトホール3571-5170

表現、くすつと笑わせてくれるユーモア、そして何よりも著者本人の真情が吐露されていることに、編集部全員の表情がほっこりしておりました。

文章の良し悪しは、けっして玄人だけの文章技術で決まるものではありません。場数を踏んだ人生経験の中から垣間見える「その人の真情」その人の魂」で決まると思います。今後ともこんな「素敵な魂」が垣間見える投稿に出くわすチャンスがあれば、「編集部冥利に尽きる」となりま

カネで決まる政治から、心を繋ぐ政治へ

立憲民主党埼玉県
第8区総支部長

いちき 伴子



「貧困と格差の解消」は最も重要なテーマです。

格差を縮め、分断をなくす政治へ

私は、立憲民主党埼玉県第8区（所沢市、ふじみ野市、三芳町）総支部長に就任をし、国政をめざし活動しています。私の政治姿勢の一丁目一番地は、格差を締め分断をなくす政治を行うことです。この10年で純金融資産が1億円以上ある富裕層は約2倍になる一方、6人に1人が相対的貧困にあります。テレビでは連日富裕層の超リッチな生活が取り上げられますが、生活が苦しく本当に困っている人たちの状況はほとんど話題になりません。貧困と格差の拡大はこれまでの政治の責任であり、日本社会に漫然とつづく停滞を打ち破るためには

私は、教会と幼稚園を運営する両親のもとに生まれ、子どもの頃から、ホームレスの方やご病気の方など多様な人が出入りする環境で育ちました。祖父は、現在の宮崎県延岡工業高校の前身となる工業学院と女学院を設立した教育者でしたが、1938年に始まった日中戦争により教員や生徒が激減し学校経営に行き詰まり、教育者の道を断念しました。クリスマスチャンであった祖父は独学で勉強し67歳で牧師の資格を得てキリスト教会と幼稚園を設立しました。戦争と貧困が表裏の関係であった時代、祖父は教会を開放し、生活相談を行い、家のない人を住ませ、戦争で傷

ついた人の生活に心を砕いてきました。そういった家庭環境で育った私は自ずと貧困問題に関心をもち、学生時代にはインドやフィリピンなどを支援する国際NGOやホームレス支援団体に関わるようになりました。一貧困と格差は社会に分断と孤立を生みだし、弱い立場の人が住むところや教育の機会を奪われ、ひいてはその国の社会的な豊かさが見失われる。高度経済成長を成し遂げ「1億総中流」といわれた日本が今や逆回転をし、坂を転げ落ちるようになり、格差が広がる現状を食い止めるなければいけません。

労働所得の格差が著しく広がっている日本は、実質賃金が30年上がらず、現役世帯の



左から3人目小宮山泰子埼玉県連会長と筆者右に西村智奈美代表代行

消費性向が低下しています。少し古いデータですが、29歳以下の二人以上勤労者世帯の消費性向について2000年を100とする2019年ではマイナス25・2%、実に4分の1も消費が低下しているという実態があります。昨今の物価高で消費性向の減少はより深刻であることはいうまでもありません。これは長年続くアベノミクス、経済政策の失政であり、構造的転換が必要です。私は、働く人の賃金があがらない主要因である非正規雇用の問題、特に女性の所得格差の是正に取り組みたいと思います。現役世代で働く女性の2分の1は非正規雇用であり、多くは長年働いてもキャリアが積みあがらない、高齢になるほど給料

が下がるといふ働き方です。コロナ禍には中年女性の自殺者が増え、女性が雇用の調整弁として扱われている実態があります。年収の壁といわれる配偶者特別控除等のあり方についても見直す必要があるでしょう。望まない非正規雇用を正規化する政策を進め、介護や保育といった仕事の

ジェンダーバイアス、女性の仕事とされ給料があがらない構造を転換する政策に力を入れていきたいと思っています。

庶民のための政治を行うには政権交代しかない！

自民党の裏金問題は、自浄できない与党の癒着構造と利権政治の闇の深さを浮き彫りにしました。日本における権力の固定化と政官業の癒着は深刻であり、この構造が社会的・政治的停滞を招いているといっても過言ではないでしょう。自民党の約3割が世襲議員、意思決定の場と同じような背景の議員が多いことも停滞を生む要因のひとつではないでしょうか。対立軸は明確です。「利権やお金で動く政治」か「庶民の声で動く政治」か、あるいは「権力者のための政治」か「庶民のための政治」かです。本当に困っている庶民のための政治を行うには政権交代しかありません。古い昭和の政治を変え、若い議員や女性議員など多様な意見が反映される政治、一人ひとりの声を聞く政治を皆さんとともにつくっていきます！